

(調査様式1)

1. 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和8年2月21日

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	46915000054
法人名	医療法人みゆき会
事業所名	グループホームひおきの里
所在地	鹿児島県日置市日吉町日置407番地1 (電話) 099-246-8611
自己評価作成日	令和8年1月15日

※事業所の基本情報は、WAMNETのホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.wam.go.jp/
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人NPOさつま
所在地	鹿児島市新屋敷町16番A棟3F302号
訪問調査日	令和8年2月6日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

「慣れ親しんだ環境の中で、共に寄り添い共に暮らしながらお一人お一人の人生を大切に生きるお手伝いをします」という施設理念に掲げ平成24年3月に開設しました。入居者様と共に日々暮らしながら、入居者様が笑顔で過ごせるよう、人生の先輩としての尊厳を大切に、受容、共感を心がけ、地域に根差した施設を目指しています。

施設の庭には、家庭菜園もあり季節の野菜や花が植えてあり、お天気の良い日には散歩がてらお花をみたり野菜の収穫をして頂いたりしています。毎月行事を計画し、1月には初詣、4月にはお花見、そして運動会、敬老会、クリスマス会など入所されてからも季節を感じてもらえるよう心がけています。

職員研修も積極的に取り組んでおり、毎月webでの研修を受けながらスキルアップに努めています。

月に2回の訪問診療と、月に2回の訪問看護があり、日頃から医療と連携を図りながら体調管理に努めています。訪問看護ステーションとの24時間体制の連携確保、またMCSを導入し医師、看護師、職員等と速やかな情報共有を行いケアに反映させる事ができ、「こころ」と「からだ」の健康を支えています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所は母体医療機関を中心に訪問看護ステーションや居宅介護支援事業所、小規模多機能ホーム、デイサービス等の事業所を併設しており、周辺には市役所や学校、食堂やスーパー等のある利便性の良い環境にある。また、地域住民とは散歩途中で挨拶を交わしたり、野菜などのお裾分けを頂く間柄もできている。

運営推進会議においては、家族や自治会長、民生委員や行政職員が参加して事業所の取り組みや行事内容の紹介、事故報告等を行っている。年6回実施している会議のうち2回は災害訓練と合わせて実施しているため災害時の連携を確認する機会にもなっている。

法人全体での報告や連絡ツールとしてMCS(コミュニケーションツール)を活用しており、日々の気付きや利用者の状況、受診の内容や事故・ヒヤリハット等を記録し職員間において共有を図っている。

理念は玄関や事務所、廊下等の目に付く場所に掲示して意識付けを図るとともに、年度目標と月度目標も掲げており、年度目標においては職員個人の目標も設定して半年毎に評価を行い管理者との個別面談も実施して目標達成度を確認している。

母体が医療機関であることや訪問看護ステーションを併設していることから重度化や終末期支援にも対応しており、看取り期においては多職種連携を図りながら本人や家族の思いに寄り添った支援をチームで実践している。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員はその理念を共有して実践につなげている	事業所理念は、事務所、各ユニットに貼り出し周知を図っている。年度目標も設定し、入所者様の尊厳や人格、特性を大切に可能な限り思いに沿った支援に取り組んでいる。	理念を玄関や事務所、廊下など目に付く場所に掲示して意識付けを図るとともに、年度目標と月度目標も掲げ、職員会議で確認や振り返りを行い、理念にある「寄り添い共に暮らす」を大切に日々支援している。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域との交流を大切に取組んでおり、自治会に加入して総会の出席や民生委員等からの情報の把握に努めている。地域の伝統行事である”せつぺとべ”や”太鼓踊り”など地域の方に協力してもらい出向いて頂いている。	自治会に加入し地域の清掃活動に参加するほか、保育園児との七夕交流や妙円寺参り行列による訪問など、地域行事を大切に積極的に関わり交流している。また、地域住民とは散歩途中に挨拶を交わしたり、野菜のお裾分けを頂く間柄ができています。	
3		○事業所の力を生かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて生かしている	職員は認知症サポーター養成講座を受講し、ご家族や地域の方に理解していただけるようにしている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回、運営推進会議を開催しており事業所の行事や取り組みを伝えて、ご意見も伺っています。年に2回は避難訓練にも参加してもらっています。	会議には家族や民生委員、自治会長や行政職員等が参加し、事業所の利用状況や行事内容、事故やヒヤリハット等について報告しており、参加者からは事故報告の内容について詳細に意見を求められたり、妙円寺参りなど地域行事の情報をもらえる場にもなっている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連携を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に参加して頂き、事業所の活動を報告しています。	行政職員とは運営推進会議で顔を合わせるほか、書類提出時等に出向いたり、メールで相談や問い合わせをしている。また、日置市多職種連携協議会主催の研修会への参加や地域包括支援センターとの情報交換の場もあり協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化委員会を3ヶ月に1回開催し、年に2回の研修も実施しており身体拘束をしないケアの取り組みを行っている。	身体拘束等の適正化のための指針やマニュアルを整備し、身体拘束や虐待に関する研修会を計画的に実施しており、拘束の有無の確認や拘束のないケアや支援のあり方について話し合っている。また、スピーチロックなど言葉による拘束については、研修会で意見を出し合い振り返る機会を設ける等して日々の支援につなげている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	web研修により、高齢者虐待防止等について学んでいる。虐待防止チェックリストを活用し、自分のケア、周りの職員のケアについて振り返りを行い、解決が必要な対応について話し合っている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	web研修により、毎月研修で学び活用できるよう努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書や個人情報提供の同意書、契約書や入所時リスクの説明、看取りに関する指針や急変時の対応についての意思確認等々、丁寧な説明を心掛けている。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関にご意見箱を設置し、自由に意見や要望を記入していただくようにしている。又、面会に来られた際に聞いたご意見や要望を管理者へ報告し速やかに対応できるよう取り組んでいる。いつでも管理者へ電話で相談して頂けるようにしている。	利用者からの意見は日常会話や様子等から汲み取り、家族からは面会時や電話、タブレットを活用してのリモート面会も実施して意見や要望を尋ねている。また、毎月お便りを作成して家族に送付しているため、電話や面会時にお便りを見ての感想をもらうこともあり、出された意見や感想を運営に役立てている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	年に2回の個人面談やアンケートなどでそれぞれの意見や提案を聞く機会を設け、意欲的に働けるよう取り組んでいる。法人でプロポーザル制度を導入し、職員の創意工夫を促している。	職員の意見は申し送り時や職員会議等において聞いており、なるべく全職員の意見を聞けるよう尋ねることもしている。業務に関する研修会へのバックアップほか、勤務に関しても休日の希望を汲み取れるよう配慮するなど働きやすい職場環境を整備している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	キャリアパス制度を導入し、自己評価や面談などで年間目標に対する取り組みや要望を聞く機会を設け意欲的に働けるよう取り組んでいる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>社内外での研修の参加を推奨している。研修参加後は報告書を提出し、伝達講習を行ったりし職員全員で知識の共有ができるよう取り組んでいる。</p>		
14		<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>事業所連絡協議会やケアマネ協議会、その他研修など同業者が集まる機会に参加し交流を図っている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅を訪問し、本人の要望や心配事を伺い、安心して入居できるよう支援している。入居後も環境の変化による不安や気分の落ち込みに配慮し、傾聴しながら共感的な支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅を訪問し、ご家族の要望や心配事をお伺いし安心して生活できるよう支援している。また入居後は、面会時にこちらでの様子を伝えたり家族の要望を伺う機会を持つなどご家族との信頼関係の構築に努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人が出来る事、出来ない事を把握し、必要な支援を検討しアセスメントに基づきケアプランを作成している。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	役割を持って生活できるよう、簡単な家事を手伝ってもらいながら、意欲を持って生活できるよう支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人と共に支え合う家族との関係 職員は、家族を介護される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と密に連絡をとり、いつでも面会できるようにしてご家族との関わりを持ってもらうよう配慮している。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	少しずつ外出ができるようになってきた。家族や友人・知人に面会ができるようにしている。家族や知人との電話や手紙の取り次ぎ等支援し馴染みの関係が途切れないよう努めている。	これまでの生活に関わりのあった人や場所を把握し、面会により友人との交流を継続したり、家族の協力の下で馴染みの美容室やお墓参り、外食に出かけるなど、本人の希望する関係を大切にしながら日々の暮らしを支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士が良好な関係が築けるよう身体状況や性格などに合わせ必要時介入するなどしている。		
22		○関係を断ち切らない取り組み サービス利用〈契約〉が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もご本人やご家族からの相談などあった場合は必要な支援を行うようにしている。また、看取りの前後も精神的なサポートも心掛けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人やご家族からの要望や意向を把握しつつ、日常の会話の中でご家族との齟齬があった場合は、ご家族に丁寧に説明し理解・協力をもらうよう努めている。	在宅時に担当していたケアマネジャーや医療機関、介護施設等からの情報ほか、本人や家族から聞き取りした生活歴等を参考に思いを把握しており、入居後も毎日の様子や気付きを汲み取り本人の望む暮らしにつなげている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人への聞き取りや担当CMなどから情報を教えてもらい、職員間で情報共有できるよう取り組んでいる。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	月に1回の会議の中で、職員間で個別ケアについて話し合う機会を設け、一人一人その人らしく生活できるよう支援している。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	担当者や計画作成者、理学療法士などの多職種でモニタリングを行いニーズを把握したうえで、QOL向上に繋がるようご本人やご家族と話し合いながら計画を作成している。	利用者の意向は日々の様子や会話から汲み取るとともに、家族からは面会時や電話で意向を尋ねケアプランに反映させており、照会文書により得た主治医の意見や助言ほか、カンファレンスや定期モニタリング評価も参考にケアプランを作成している。ケアプランには本人の楽しみ事も丁寧に記載しておりケアに反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		<p>○個別の記録と実践への反映</p> <p>日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている</p>	<p>日々の様子やケアについて職員の気づきなど個人記録に残している。また、職員間ではMCSを使い情報共有している。</p>		
28		<p>○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化</p> <p>本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる</p>	<p>本人やご家族の状況や要望に応じて、迅速かつ丁寧に対応できるよう取り組んでいる。</p>		
29		<p>○地域資源との協働</p> <p>一人ひとりの暮らし方を支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している</p>	<p>地域の行事に参加したり、近所の方々や民生委員さんの面会・自治体の相談員活動受け入れなど地域との交流が続いている。</p>		
30	11	<p>○かかりつけ医の受診支援</p> <p>受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>	<p>かかりつけ医による定期的な訪問診療・体調不良時の往診、または適宜他の医療機関の受診など適切な医療が受けられるよう支援している。訪問看護ステーションとの24時間医療連携の体制も築いている。</p>	<p>入居後は本人や家族の同意の下で協力医療機関による訪問診療に切り替えてもらい24時間医療連携を図りながら支援を行っている。専門医への受診については家族による支援をお願いしているが家族が遠方の場合等は職員が受診を支援している。</p>	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけ医や、訪問看護ステーションと24時間連携が取れる体制を確保している。また、定期以外でも看護職員に相談したり、指示や助言を受けられる環境にある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。または、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	当事業所は入退院支援ルールに参加しており、医療機関との情報共有ができる仕組みがある。入院中も定期的に連絡を取り、情報交換を行い安心して入院加療ができるよう支援している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人や家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様やご家族の希望があれば看取り介護も実施している。また、看取りに関する指針も整備しており、入居時と状態変化時ご家族に説明を行い意向を伺っている。医療と連携して終末期介護を提供した実績もある。看取り終了後には多職種で振り返りを行い、次回に繋げている。	重度化対応に関する指針、看取りに関する指針のほか、急変時の対応についての意思確認書も整備し入居時に説明と同意を得ている。また、ターミナル研修の実施や看取り支援の前後には不安なく支援できるよう多職種による話し合いも行きチームでの看取り支援を行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、すべての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時の対応についてマニュアルに沿って対応できるようにしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	13	<p>○災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている</p>	<p>年に2回の防災訓練を実施し、ご家族や地域の方々、入居者様にも参加していただき、緊急時に安全に避難できるよう取り組んでいる。日中と夜間用のフローチャートも作成・掲示済み。</p>	<p>年2回の災害訓練は運営推進会議に合わせて実施しているため家族や地域住民の参加も得られているほか、事業継続計画においても必要な研修と訓練を実施している。備品に関してはヘルメットやカセットコンロ等を備えているが、食料等の備蓄はない。</p>	<p>飲料水は2リットルのペットボトル6本入りを2ケース保管しているが食料等は保管していないとのこと。災害はいつ何時発生するかもしれないことを考慮すると事業継続計画を参考に食料や飲料水の備蓄が望まれる。</p>

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩として、尊厳を大切にしながら敬意を持って接するよう心がけている。プライバシーへの配慮も気を付けている。	プライバシーやハラスメント、認知症ケア等の研修を実施し、尿臭に気付いた時にはさり気なく居室に誘導したり、パッチワークなど趣味活動に居室で取り組めるよう環境を整備するなど個々に応じた支援を行っている。また、同性介助にも希望に応じて可能な限り対応している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	普段の生活の中で入所者様の思いをさりげなく伺いながら、ご自分で選択して頂けるよう支援している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	生活のリズムを整えながらその人らしく、その人のペースで生活できるよう支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるよう支援している	お気に入りの洋服を着たり、お化粧をしたりご本人が望まれる事ができるよう支援している。2ヶ月に1回、地域的美容院の方に出張ヘアカットに来てもらっている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	野菜の皮むきやもやしの根とりなど手伝ってもらいながら、片づけへの参加を促すなどしている。楽しく食事が摂れるような環境作りに努め、嗜好や嚥下の状態を考慮した食事提供に努めている。	2ユニット同じ献立を調理の下ごしらえや食器洗いなど利用者のできることに参加してもらいながら調理しており、おかゆやミキサー食など個々に応じた食事形態で提供している。また、近くの食堂からのケータリングも利用している。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	各ユニットの献立作成担当者が指示食の有無を把握し、栄養バランスの取れた献立を合同で作成し食事量や水分摂取量など記録し健康管理に役立てている。ミキサー食や刻み食なども提供している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の臭いや汚れが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入居者様の状態に合わせた口腔ケアの支援を実施している。口腔内の状態を確認したり義歯の管理を行ないながら誤嚥性肺炎予防を行なっている。歯科往診の支援も行なっている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	排泄の記録を取り、入居者個々の排泄パターンの把握に努めるとともに、なるべく紙おむつに頼らない自尊心に配慮した支援を心掛けている。	利用者全員分の排泄状況をチェック表により把握し、日中はなるべくトイレでの排泄を支援することで自然な排泄と排泄ケア用品の使用削減につなげている。また、日々の排泄支援に関してはケアプランに組み込みケアの統一を図っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	各ユニットで排泄チェック表を作成し排便の有無の把握をしている。食事や水分の摂取状態と合わせ支援に役立てている。身体を動かす機会を定期的に設けたり、必要時かかりつけ医に報告、相談している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援している	入浴時間帯も含め、ご本人の意向になるべく浴うようにしており、自立支援を念頭に出来る事はしてもらい、出来ない所を介助している。	週3回午前中の入浴を基本としているが、予定日以外の入浴希望がある際は対応は可能である。現在3ユニット目を建築中であり、浴室に特殊浴槽の導入を予定しているため重度化しても安全に入浴できる環境が整備される計画である。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	昼夜逆転にならないよう昼間の活動も含め良質な睡眠が取れるよう観察・支援を行っている。お一人お一人の体調や習慣に応じ柔軟に対応している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	かかりつけ医や看護師、薬剤師と連携し薬情の把握に努め、禁忌や副作用を考慮しながら観察を行い医療機関へ報告・相談できる体制を取っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活暦や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	簡単な家事や手伝いをして頂いたり、季節に応じた行事や地域との関わりの中で喜びを感じてもらえるよう、また気分転換を図ってもらえるような支援を行っている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるように支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天候や本人の体調を考慮しながら散歩や外出を計画・実施している。また、地域の行事やドライブ・花見なども計画・実施している。	初詣や花見、あじさい見物など季節を感じられる場所に出かけるほか、妙円寺参りや「せつぺとべ」「太鼓踊り」等の地域行事にも参加できるよう地域の協力を得ながら交流している。また、日常的に敷地内を散歩するなど外気浴を行う機会を設け気分転換を図っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	要望に応じて所持金を金庫で保管している。また生活用品や嗜好品等ご本人の希望に応じて使用できる体制をとり、ご家族へは毎月収支報告を行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援している	希望時は電話が出来る体制を取っている。携帯電話を所有されている入居者様については操作などの支援も行っている。ご家族からお手紙をもらったら返事を書くよう支援している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱を招くような刺激（音、光、色、広さ、湿度など）がないように配慮し、生活感や季節感を取り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間の清掃を毎日行い、年に2回の大掃除など行い清潔な環境を提供している。季節の花を飾ったり、ご本人と一緒に壁画作りをしたりして季節を感じて頂けるよう工夫している。	ホールの天井は高く換気も可能な明り取り窓も備え開放的であり、加湿器による空調管理もなされている。浴室はヒートショック予防のため脱衣場との温度差を最小限に抑えるとともに、重度化に対応できるよう建設中の3ユニット目の事業所には特殊浴槽が導入される予定である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用空間の中にもソファや椅子を置き、思い思いに使用できるような環境を提供している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>	<p>入居の際にご本人やご家族と話し合いを十分に行い、可能な限り使い慣れた家具の使用を受け入れ、心地よく過ごせるよう環境作りに努めている。</p>	<p>居室にはベッドやエアコン、洗面台やトイレ、加湿器が備え付けられるほか、テーブルやタンス、趣味のキーボードなど馴染みの品を持ち込み居心地に配慮して自由に配置している。</p>	
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>	<p>安全に過ごせるよう環境を整え、分かりやすい案内や目印をつけたり、安全かつ自立した生活が送れるよう職員間で意見を出し合い工夫している。</p>	/	/

V アウトカム項目

56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1 ほぼ全ての利用者の
			2 利用者の2/3くらいの
			3 利用者の1/3くらいの
			4 ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1 毎日ある
			2 数日に1回程度ある
			3 たまにある
			4 ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿が見られている。 (参考項目：36, 37)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない

61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により安心して暮らしている。 (参考項目：28)	○	1 ほぼ全ての利用者が
			2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1 ほぼ全ての家族と
			2 家族の2/3くらいと
			3 家族の1/3くらいと
			4 ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)		1 ほぼ毎日のように
			2 数日に1回程度ある
		○	3 たまに
			4 ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1 大いに増えている
			2 少しずつ増えている
			3 あまり増えていない
			4 全くいない

66	職員は，生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1 ほぼ全ての職員が
			2 職員の2/3くらいが
			3 職員の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
67	職員から見て，利用者はサービスにおおむね満足していると思う。		1 ほぼ全ての利用者が
		○	2 利用者の2/3くらいが
			3 利用者の1/3くらいが
			4 ほとんどいない
68	職員から見て，利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1 ほぼ全ての家族等が
			2 家族等の2/3くらいが
			3 家族等の1/3くらいが
			4 ほとんどいない